

一一ノ七、藤堂藩寄進の覚書

出典 笠置寺所蔵の原本

解説 貞慶直筆、地蔵講式他についての藤堂藩からの寄進状。藤堂藩は宝永元年（一七〇四年）四月に三代藩主高久が亡くなり、同六月に藤堂藩主を高久の弟、高睦（高久の養子となった）が襲封した。

この寄進はその二ヶ月後のことで、襲封を記念して寄進されたものか、あるいは先代供養のため寄進されたものだろう。この地蔵講式は現在奈良国立博物館に寄託中で、重要文化財に指定されている。なお口上書など付属の書状は行方不明である。

藤堂藩側においても永保記事略（藤堂藩の記録書）、宝永元年（一七〇四年）八月の条に「笠置寺へ宝物御寄付并正五九月御祈祷被仰付候事。宝永元申八月十五日御越国中也」と、藩主高睦が津本城から伊賀上野城に越国（伊賀上野城支配地域の藩内事情を掴むために、藩主が津本城から伊賀上野城に巡回をおこなうことを越国と称している）したときの事である旨、記されている。

歴代藩主は就任後伊賀上野城に越国の際、笠置寺に参詣するのが通例であったので、記録はないがおそらく笠置寺に参詣してこれらの宝物を寄進したのであろう。

原文

覚

一、地蔵講式解脫上人
真蹟帛包

一軸、軸真鍮
表紙金入

一 筆者極證文従江州宝徳寺神田喜兵衛方江出状 一通

一 従神田道喜井野口宗休江口上書 一通

一 極札（注二） 二枚

一、解脫上人所持之鈴 唐織袋入 一口

一、箱内朱外黒塗環紐付 輪宝松竹梅鶴龜之蒔絵
箱之内御寄付之書付有之

右之一軸并一鈴就今度伊賀太守御寄附如紙面相渡候可為当山之御重宝者也如件

宝永元甲年（一七〇四年）八月 日

葛原半太夫（注二）

笠置山

文殊院

福寿院

多聞院

注一、極札、極書ともいう。主に書画などの美術品の筆者を鑑定した書き付けのこと。

注二、葛原半太夫は元禄十二年（一六九九年）から宝永七年（一七一〇年）まで城和奉行。